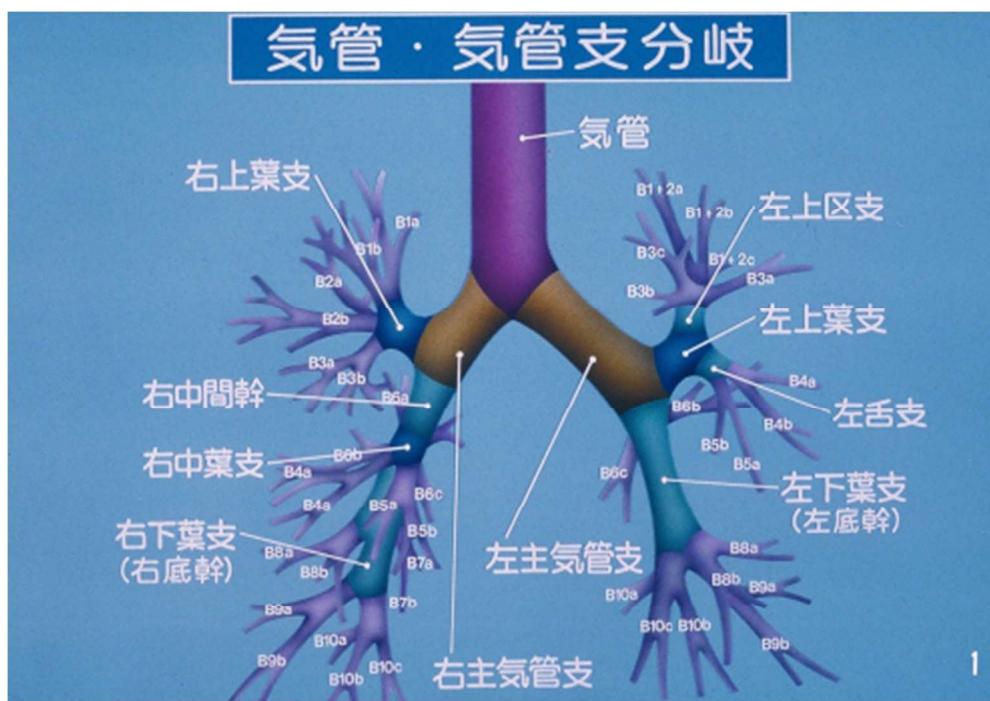
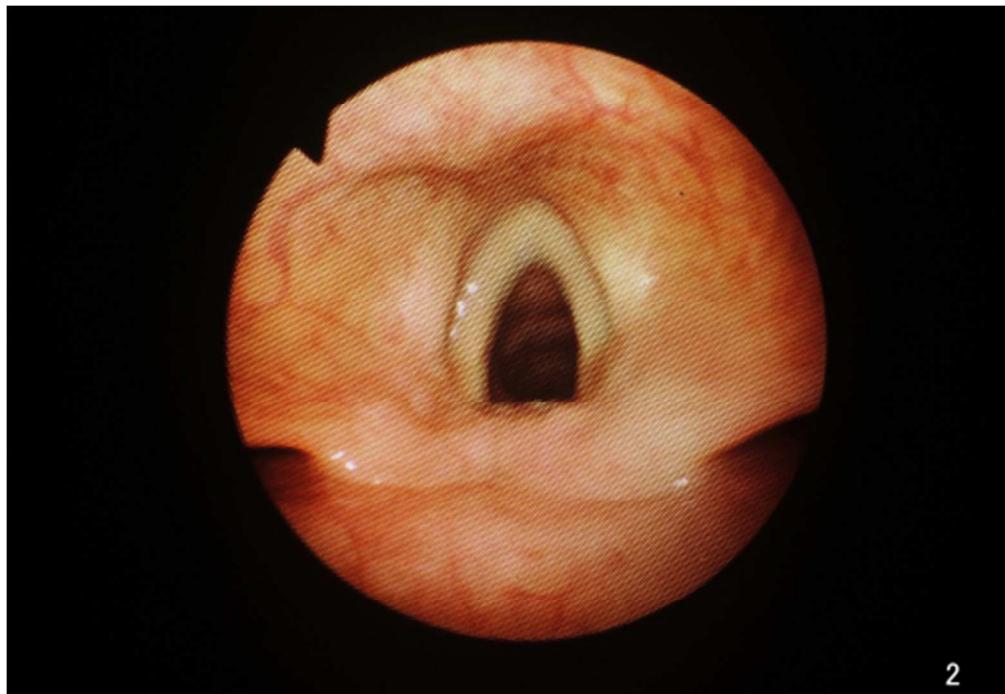


スライド 1 (気管支区域の模式図)



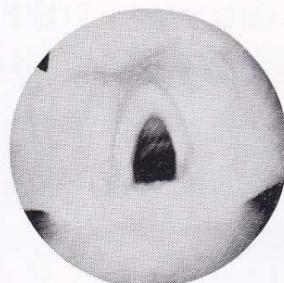
## 正常編



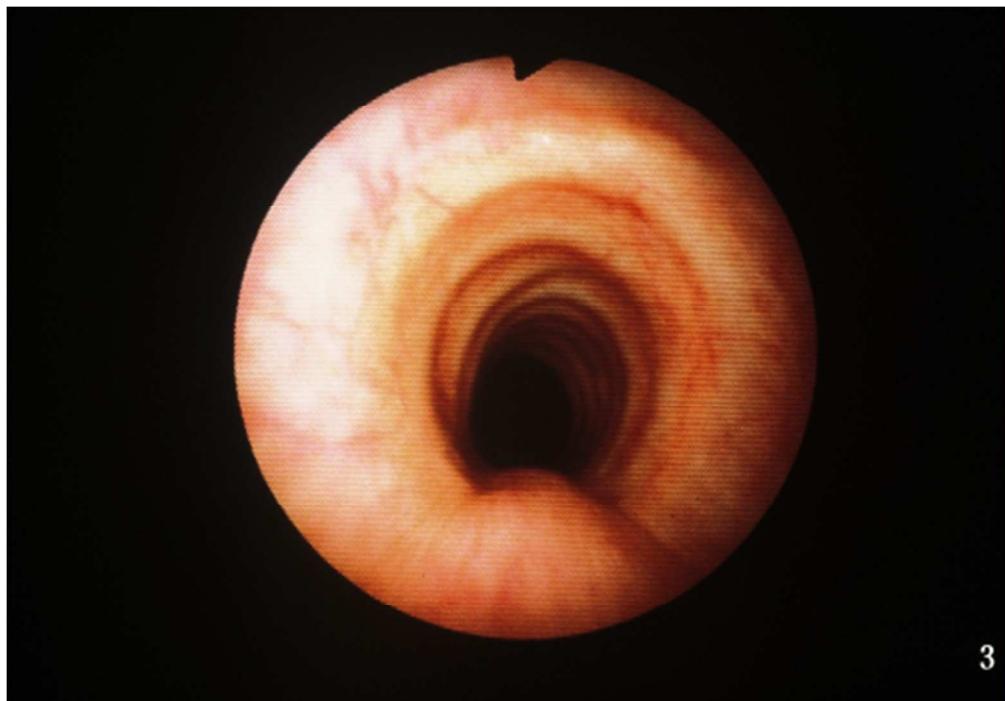
2

### スライド 2 (喉頭—声帯)

49歳、男性。喉頭から声帯を見た所見である。発声によって声帯は開閉し、嚥下時にも閉じる。上部が前方、下部が背側。



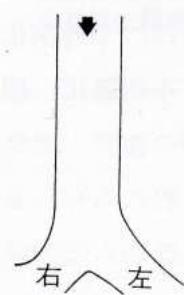
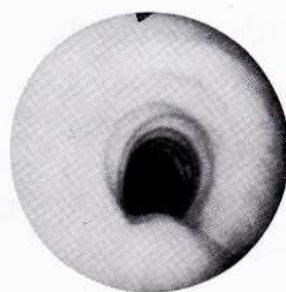
2

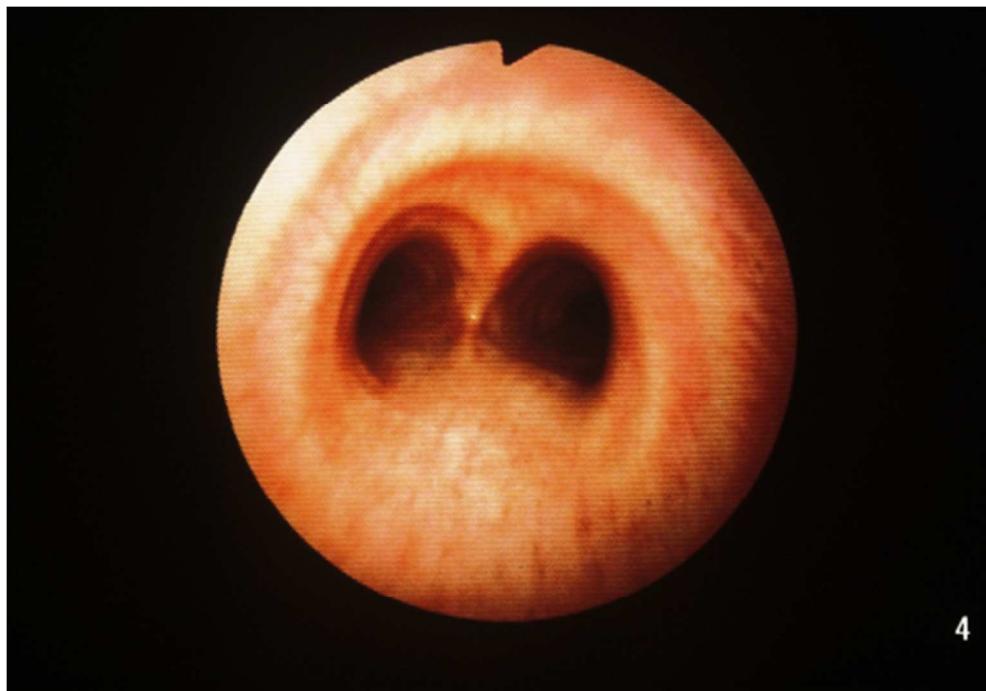


3

### スライド 3 (気管)

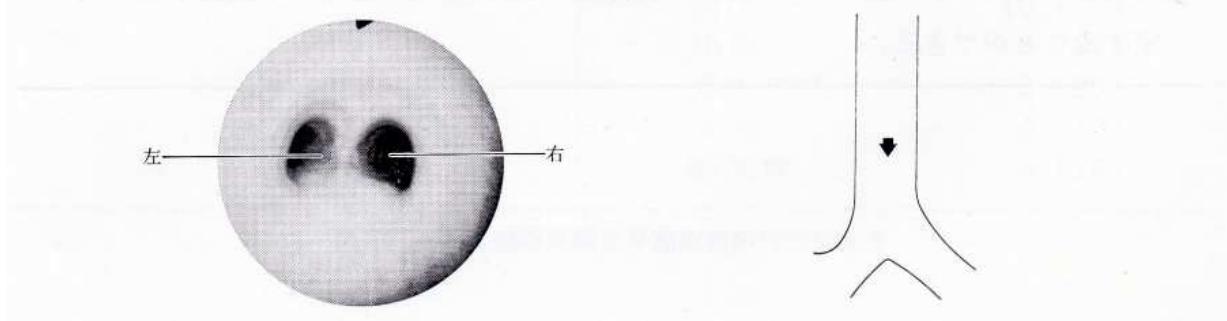
前方から側方にかけて軟骨輪によって管腔が保持されている。軟骨間は陥凹し、軟骨輪は突出している。背面（スライド下面）は軟骨輪ではなく、この部分を膜様部と呼ぶ。咳嗽により膜様部が隆起する。図の矢印↓は気管支鏡の位置。

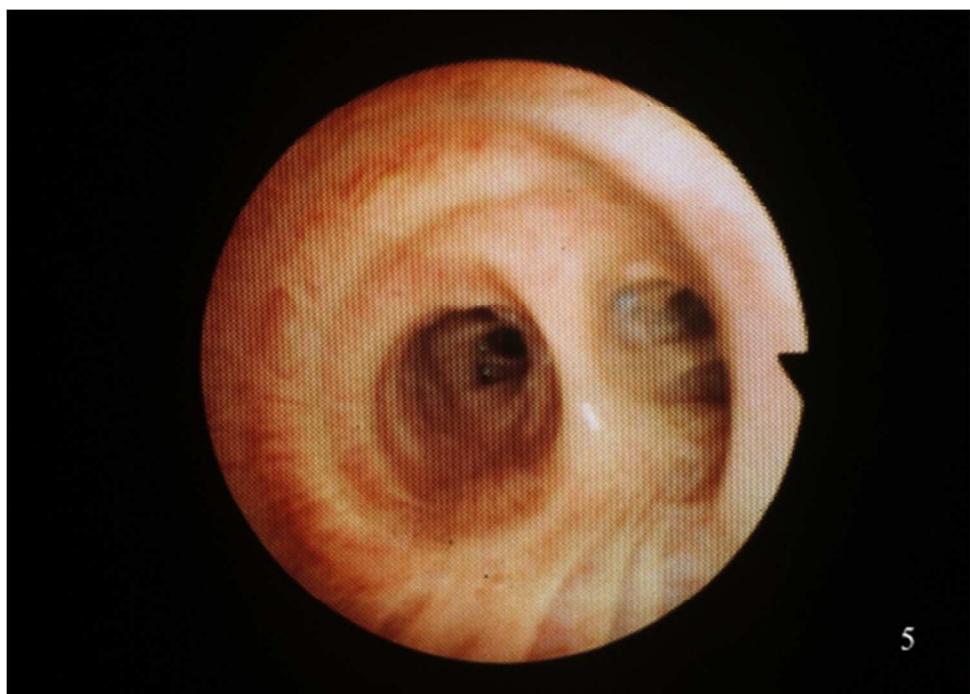




#### スライド 4 (気管分岐部)

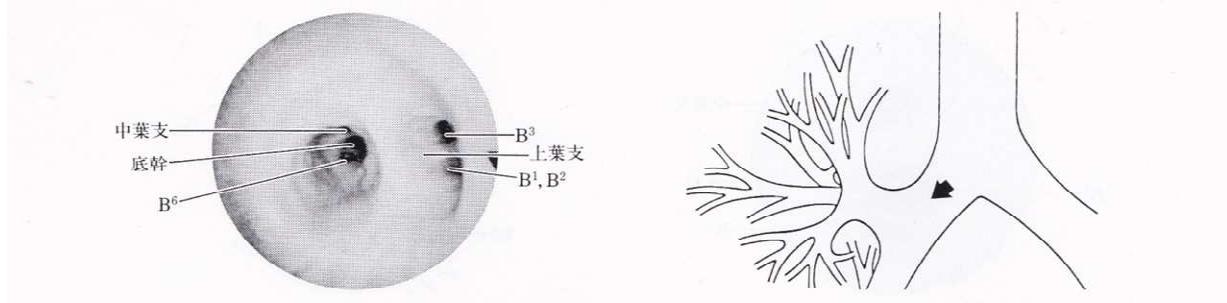
気管は、この部位で左右の主気管支に分かれます。成人で声帯から約 20 cm 下方に存在する。





### スライド 5 (右主気管支)

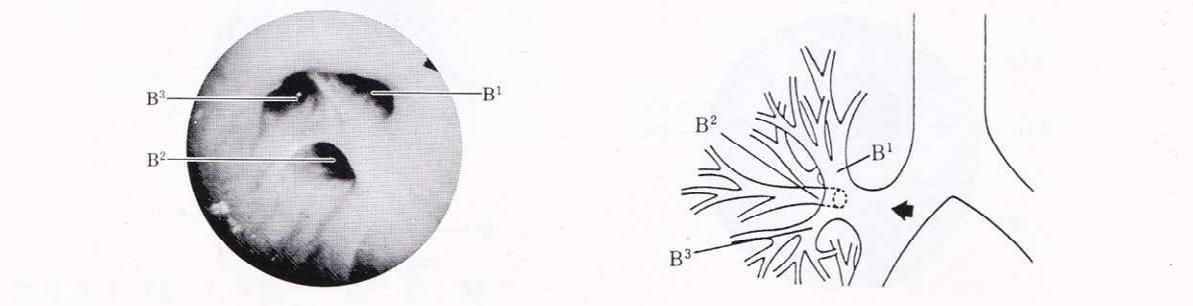
右主気管支から末梢側を見た所見である。気管分岐部から通常成人で約 2 cm で右上葉支を右方に分岐する。

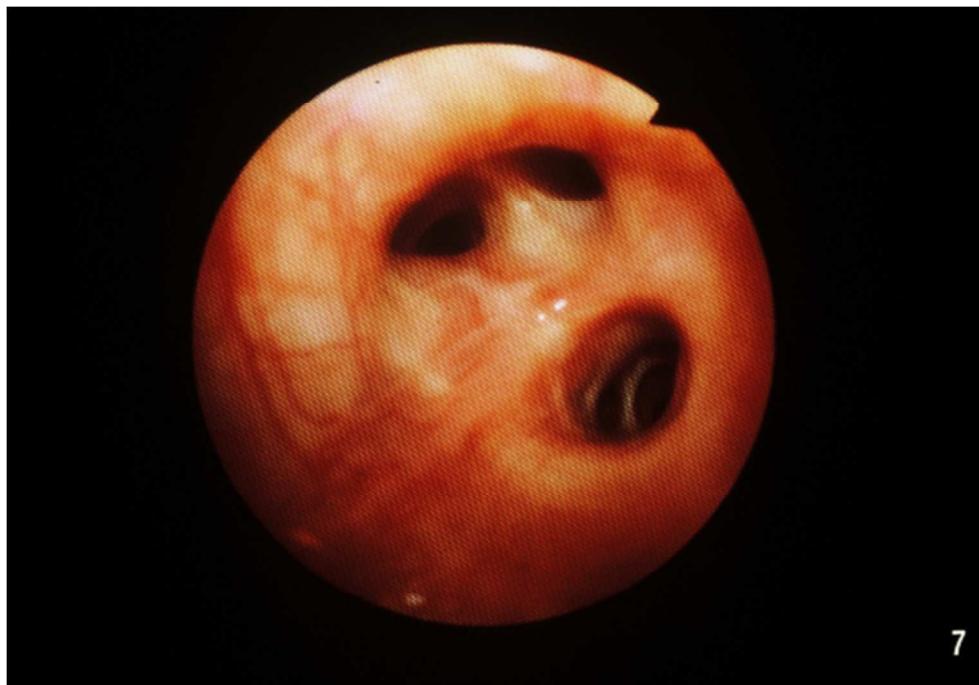




### スライド 6 (右上葉支)

右上葉支は、次に区域支を通常3分岐する。分岐様式は、完全3分岐型が最も多く、次に  $B^1 + B^2$  と  $B^3$ ,  $B^1$  と  $B^2 + B^3$ ,  $B^1 + B^3$  と  $B^2$  の順に多い。このスライドは完全3分岐型である。 $B^1$  は背側へ、 $B^2$  は前上方へ、 $B^3$  は前下方へ分岐する。

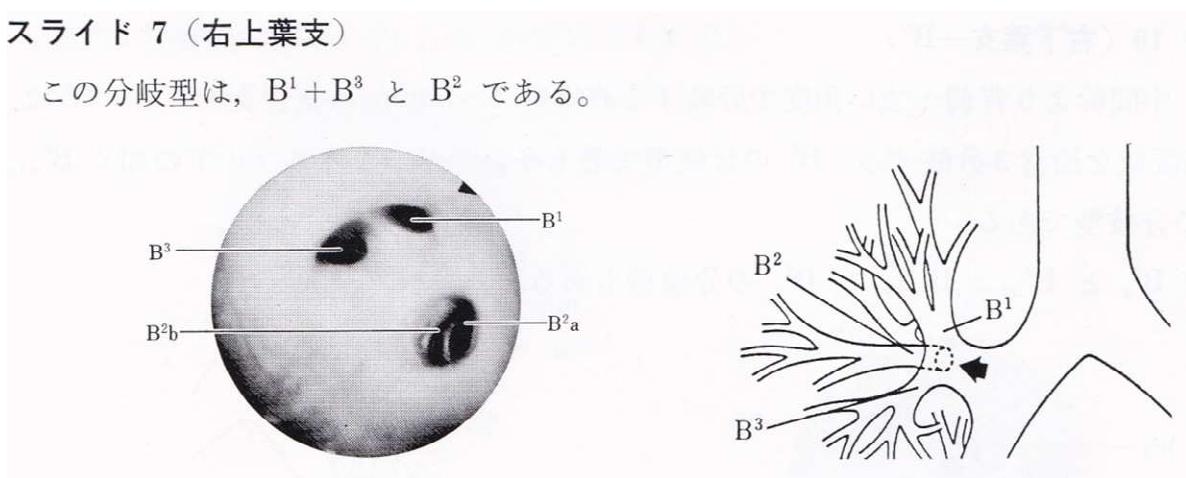


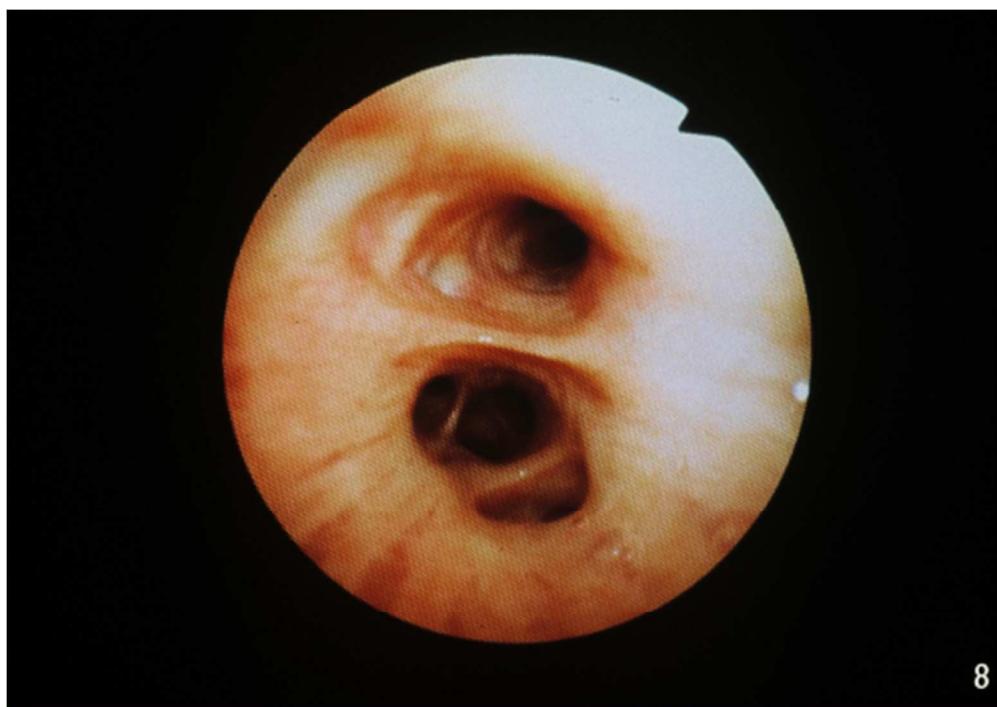


7

### スライド 7 (右上葉支)

この分岐型は、 $B^1 + B^3$  と  $B^2$  である。



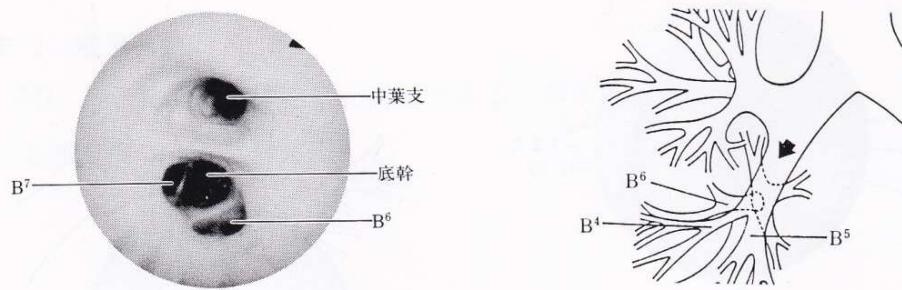


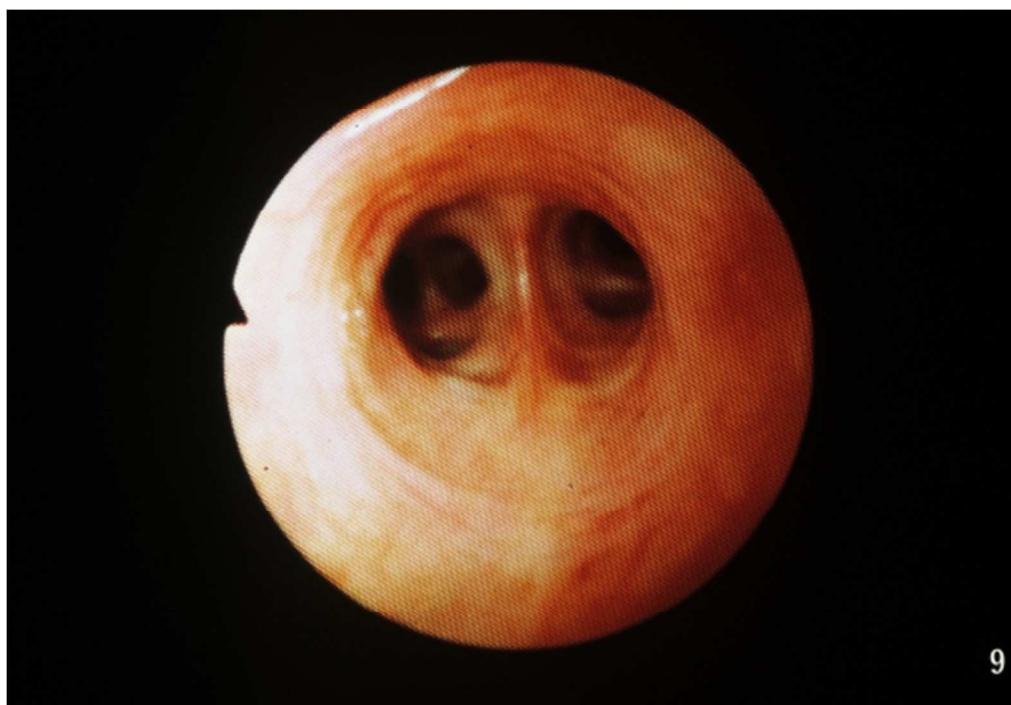
8

### スライド 8 (中間幹)

中間幹は、右上葉支の分岐から中葉支分岐部までを指し、成人で通常約 2 cm である。

中間幹は前方から中葉支、底幹、B<sup>6</sup> に 3 分岐するのが特徴である。

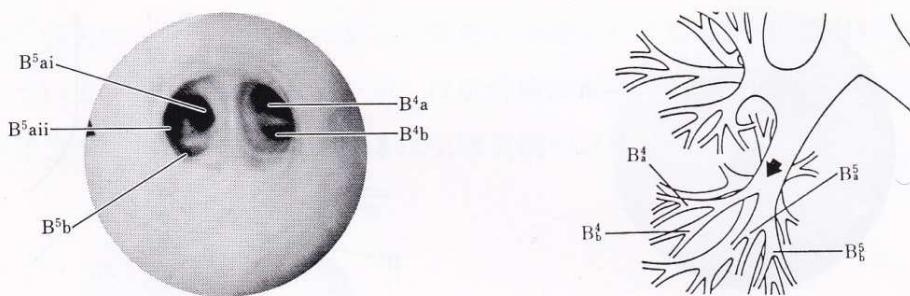




9

### スライド 9 (中葉支)

中葉支は、中間幹より前方に分岐する比較的太い気管支（直径約7~8 mm）で、約1 cm先で区域支を分岐する。区域支は通常  $B^4$ ,  $B^5$  の2分岐型であるが、時に3分岐型のこともある。 $B^4$  は外側へ、 $B^5$  は内側へ分岐する。

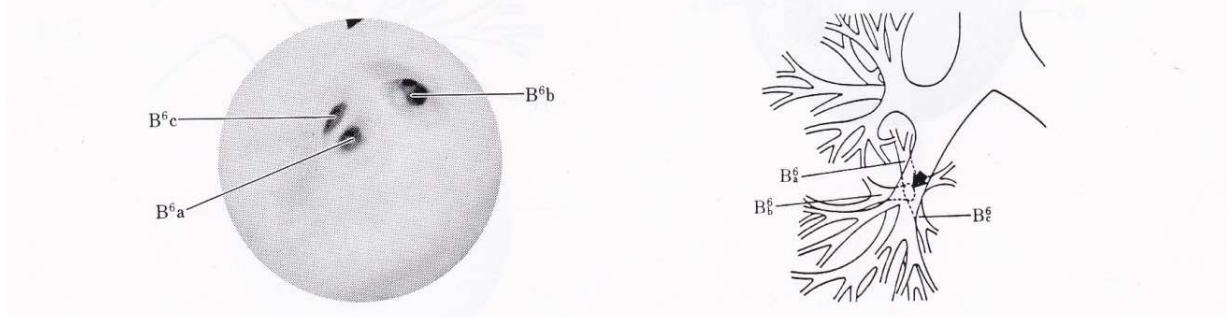




#### スライド 10 (右下葉支—B<sup>6</sup>)

B<sup>6</sup> は、中間幹より背側へ強い角度で分岐する直径約 5~6 mm の気管支である。B<sup>6</sup> は、さらに亜区域を通常 3 分岐する。B<sup>6</sup> の分岐型で最も多いのが、このスライドの如く B<sup>6</sup><sub>a+c</sub> と B<sup>6</sup><sub>b</sub> の分岐型である。

その他 B<sup>6</sup><sub>a</sub> と B<sup>6</sup><sub>b+c</sub>, B<sup>6</sup><sub>a+b</sub> と B<sup>6</sup><sub>c</sub> の分岐型もある。

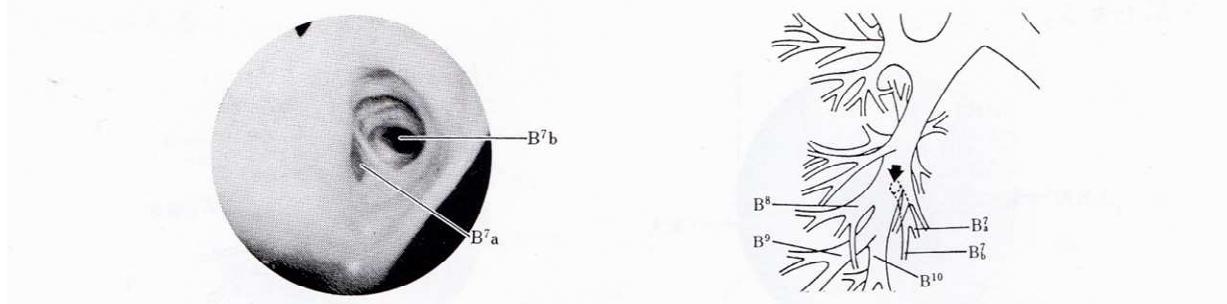


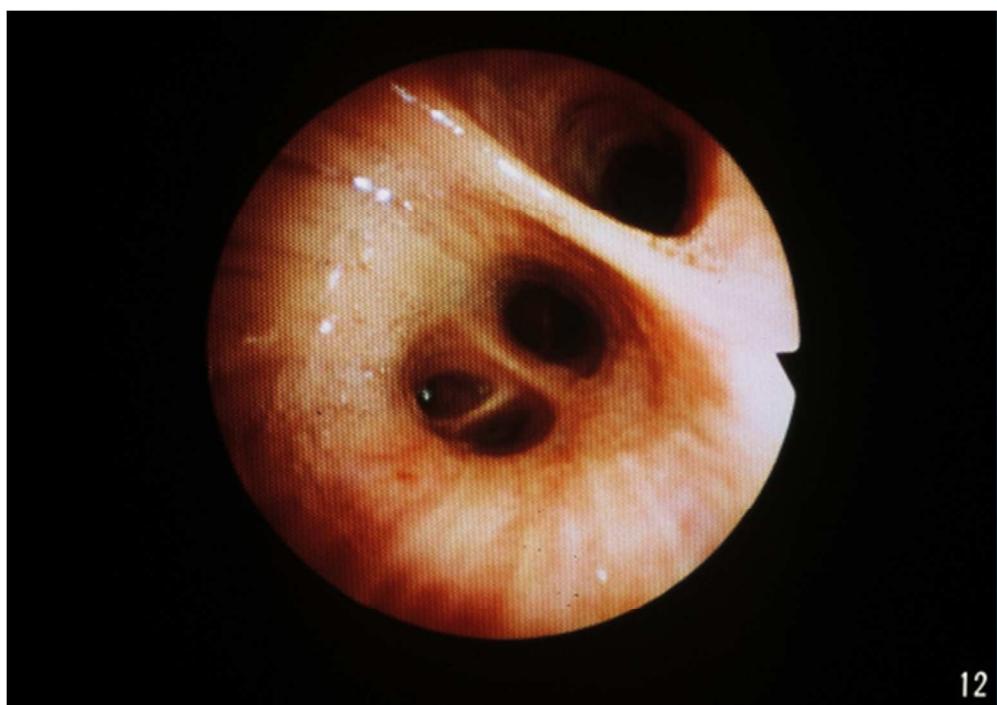


11

### スライド 11 (右下葉支—B<sup>7</sup>)

B<sup>7</sup> は、B<sup>6</sup> 分岐部から底幹に入った所で分岐する気管支で、内側、下方に分岐する。通常、亜区域支を 2 分岐する。

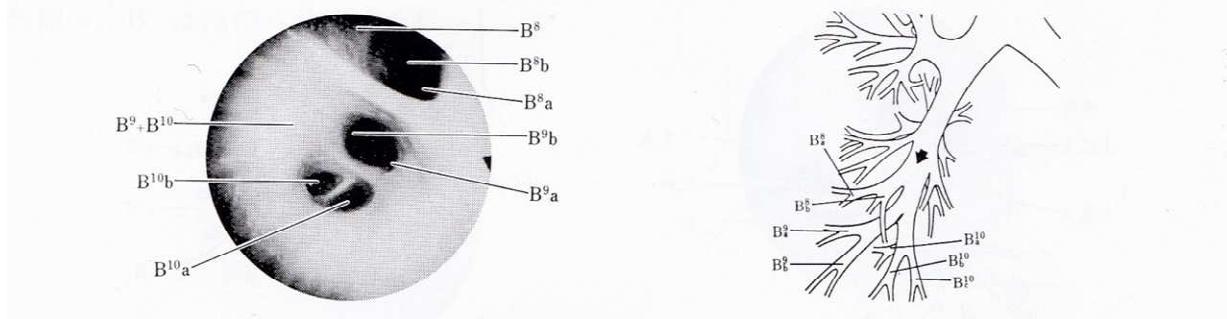


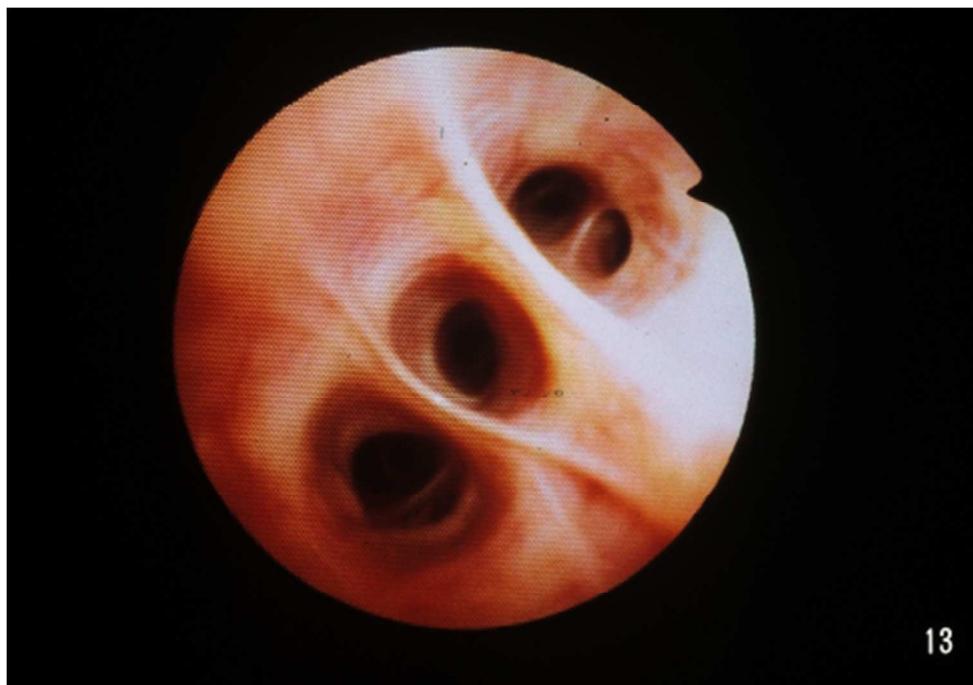


12

### スライド 12 (右下葉支—B<sup>8</sup>, B<sup>9</sup>, B<sup>10</sup>)

前方から B<sup>8</sup>, B<sup>9</sup>+B<sup>10</sup> に分岐している。この分岐型が最も多く、B<sup>8</sup>+B<sup>9</sup> と B<sup>10</sup>, 完全 3 分岐型もみられる。亜区域支は、いずれも外側に分岐するのが a で、内側が b である。

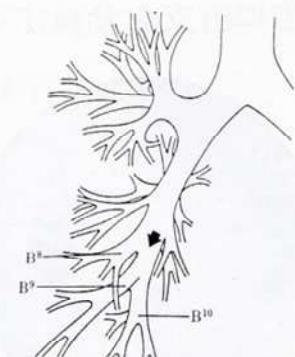
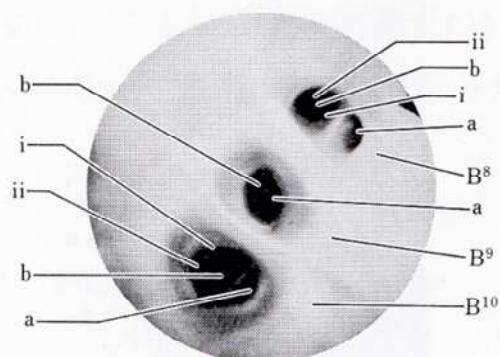


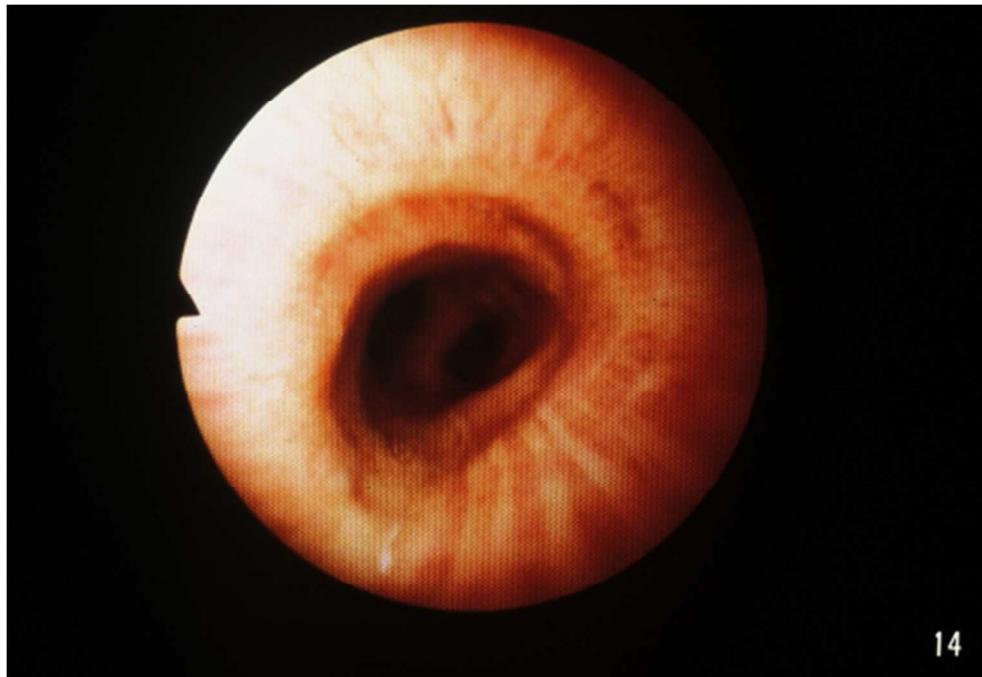


13

スライド 13 (右下葉支— $B^8$ ,  $B^9$ ,  $B^{10}$ )

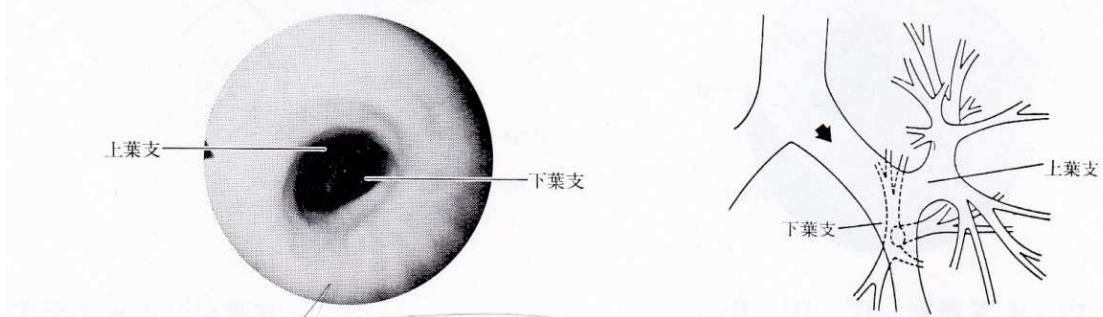
完全 3 分岐型である。約 10% 程度にみられる。





#### スライド 14（左主気管支）

気管分岐から左側方向へ分岐する。成人では通常 4~6 cm で、直径約 1 cm 位である。末梢側で上葉支と下葉支に分岐する。この分岐手前では、膜様側で肺動脈の拍動をみるとができる。

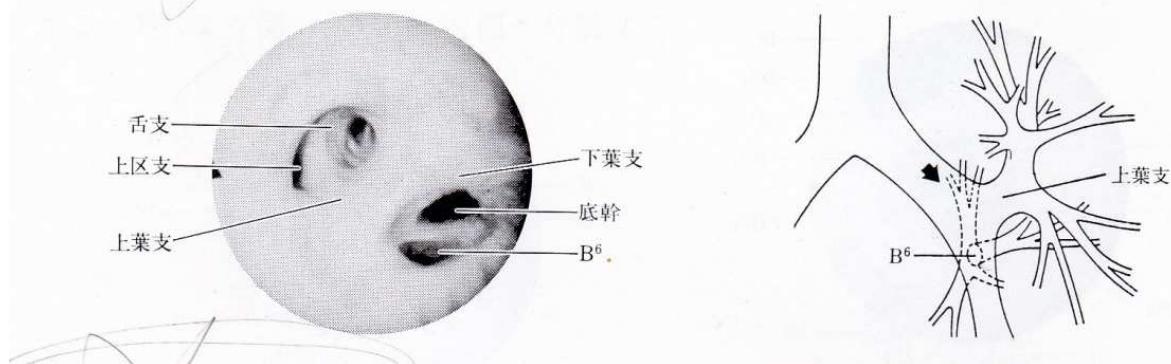




15

スライド 15 (左上葉支・下葉支分岐部)

左主気管支から上葉支は上方やや前方に分岐し、下葉支は下方に分岐する。

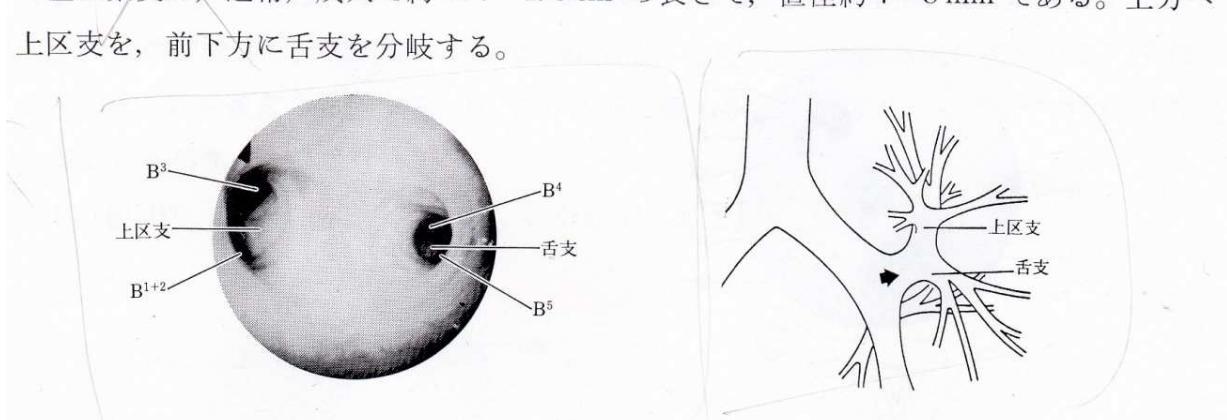




16

~~スライド 16 (左上葉支)~~

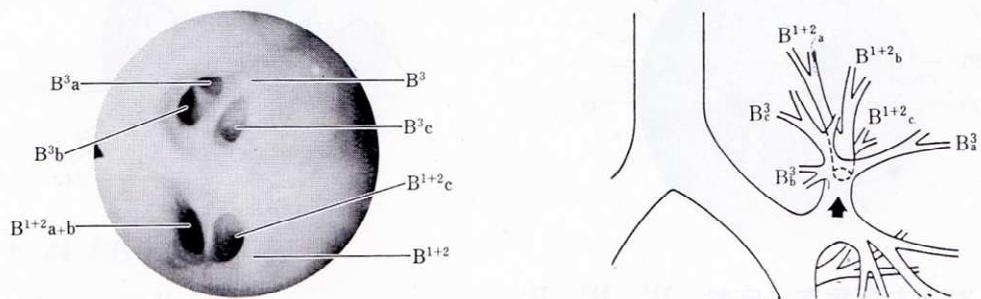
左上葉支は、通常、成人で約 0.7~1.0 cm の長さで、直径約 7~8 mm である。上方へ上区支を、前下方に舌支を分岐する。





### スライド 17 (左上葉支一上区支)

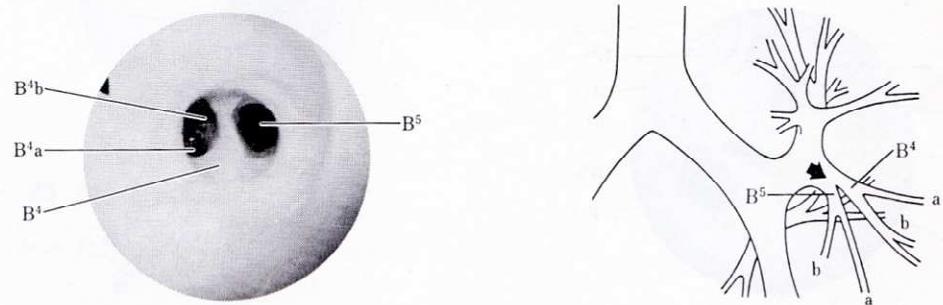
上区支は、このスライドの如く  $B^{1+2}$  と  $B^3$  との 2 分岐型がもっとも多く、 $B^{1+2}$  は上方背側へ、 $B^3$  は前方へ分岐する。3 分岐型（例えば  $B^{1+2}_a + B^{1+2}_b$  と  $B^{1+2}_c$  と  $B^3$ ）もみられることがある。

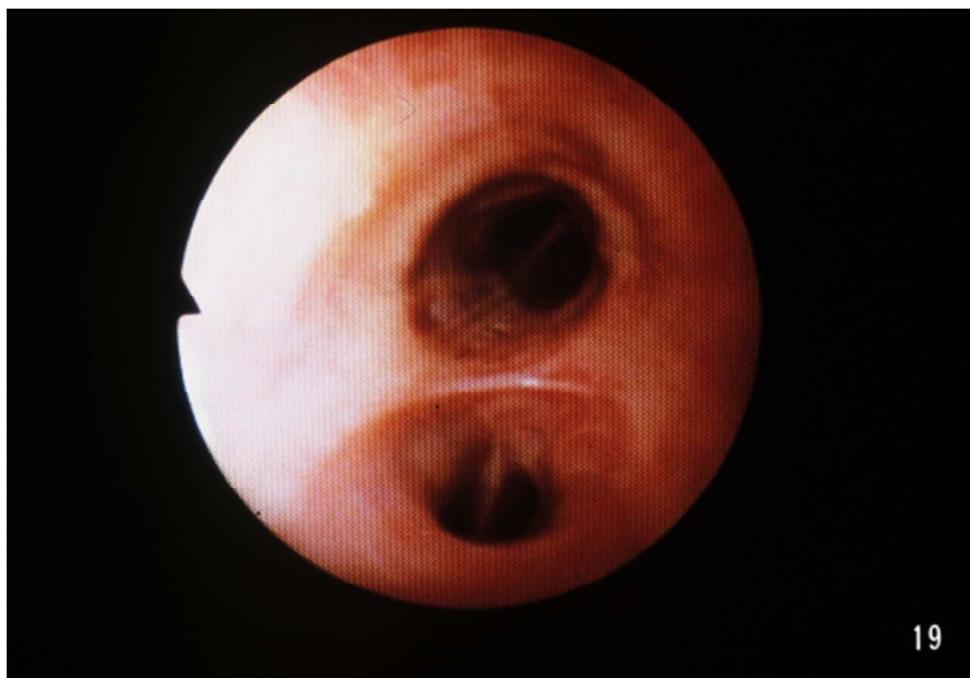




### スライド 18 (左上葉支一舌支)

舌支は、上葉支より前下方へ分岐し、通常は  $B^4$  と  $B^5$  の 2 分岐型が最も多い。 $B^4$  は外側へ、 $B^5$  は内側へ分岐する。

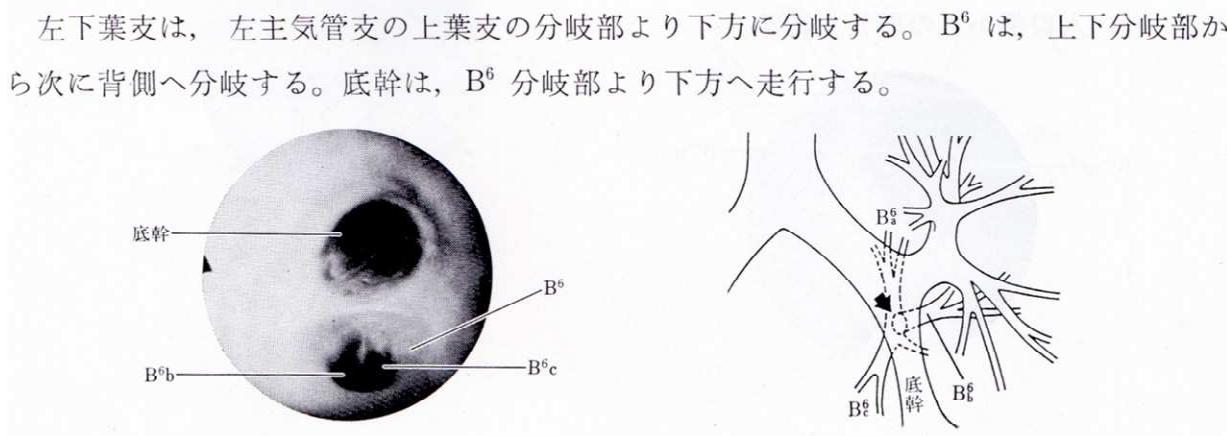




19

### スライド 19（左下葉支）

左下葉支は、左主気管支の上葉支の分岐部より下方に分岐する。B<sup>6</sup> は、上下分岐部から次に背側へ分岐する。底幹は、B<sup>6</sup> 分岐部より下方へ走行する。

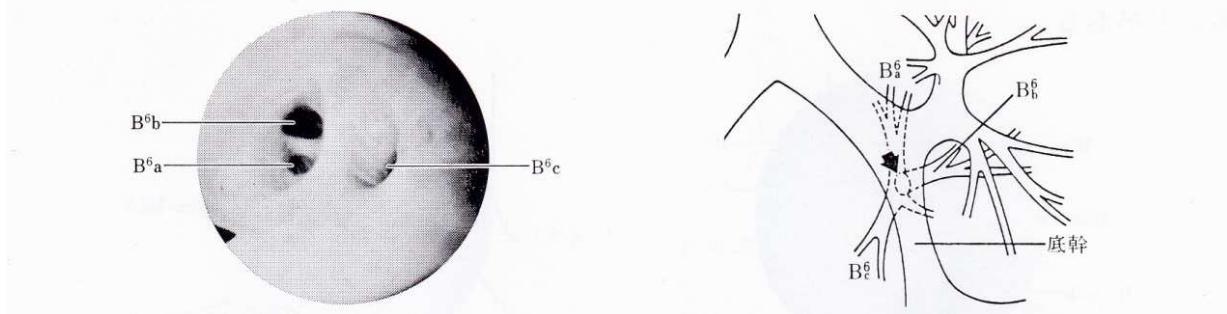




20

### スライド 20 (左下葉支—B<sup>6</sup>)

左 B<sup>6</sup> は、左下葉支入口部で背側に分岐する気管支で、2 分岐型 (B<sup>6</sup><sub>a+b</sub> と B<sup>6</sup>, B<sup>6</sup><sub>a</sub> と B<sup>6</sup><sub>b+c</sub>) であることが多いが、3 分岐型 (a, b, c) も 10 数 % にみられる。



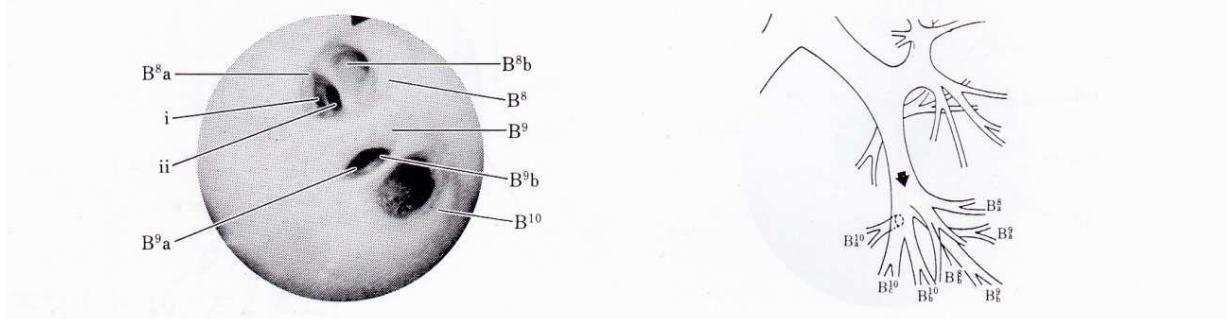
20

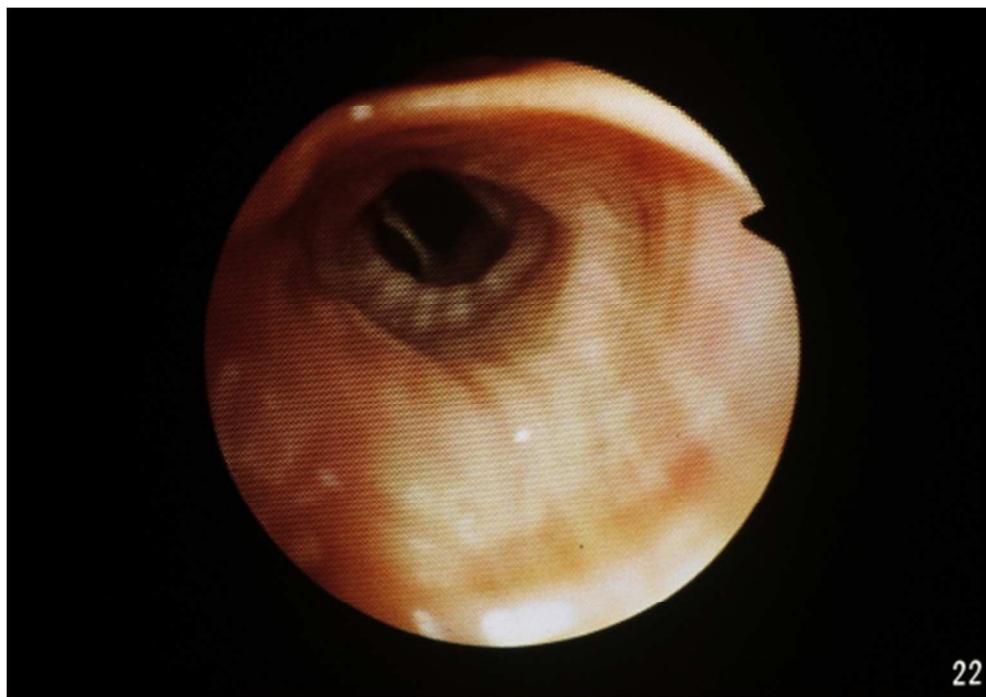


21

#### スライド 21 (左下葉支—底幹, $B^8$ , $B^9$ , $B^{10}$ )

左  $B^6$  分岐部より通常成人で 0.6~1.0 cm 末梢側で前方から  $B^8$ ,  $B^9$ ,  $B^{10}$  を分岐する。分岐型は 2 分岐型 ( $B^8$  と  $B^9+B^{10}$ ,  $B^8+B^9$  と  $B^{10}$ ) が多く、3 分岐型 ( $B^8$ ,  $B^9$ ,  $B^{10}$ ) も約 30% 程度にみられる。

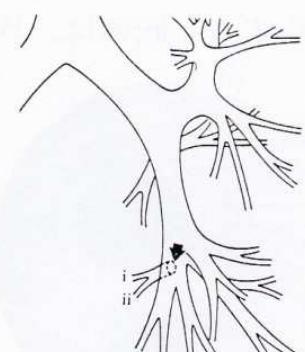
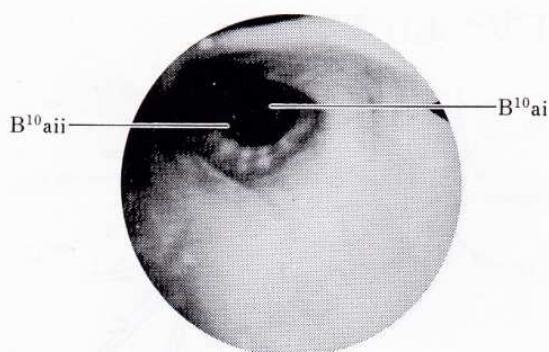


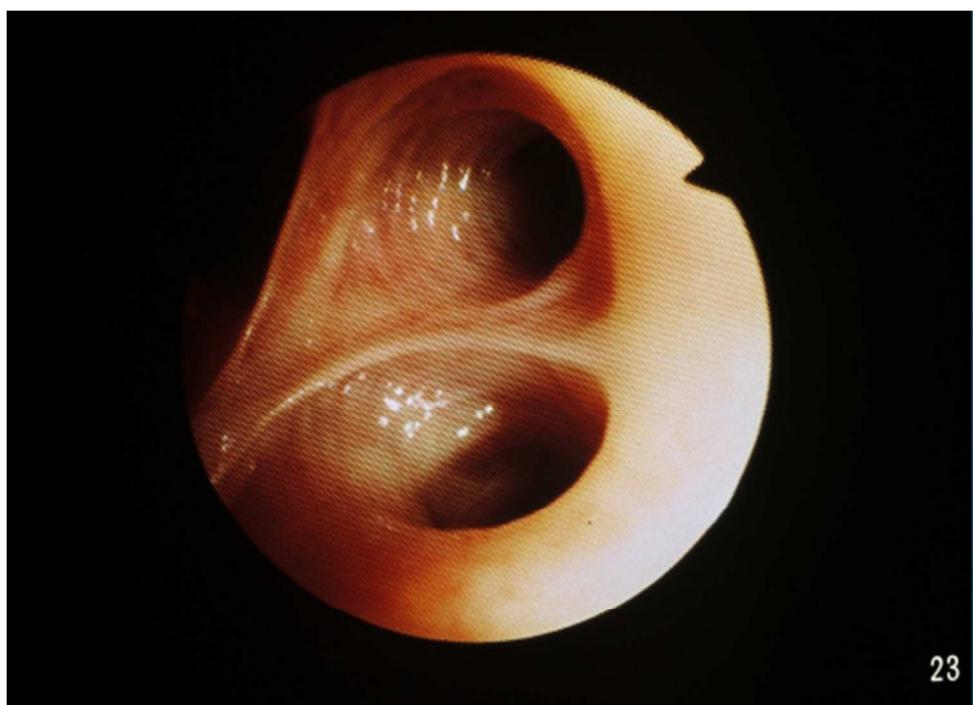


22

### スライド 22 (左下葉支)

左  $B^{10}_a$  入口部からの所見である。

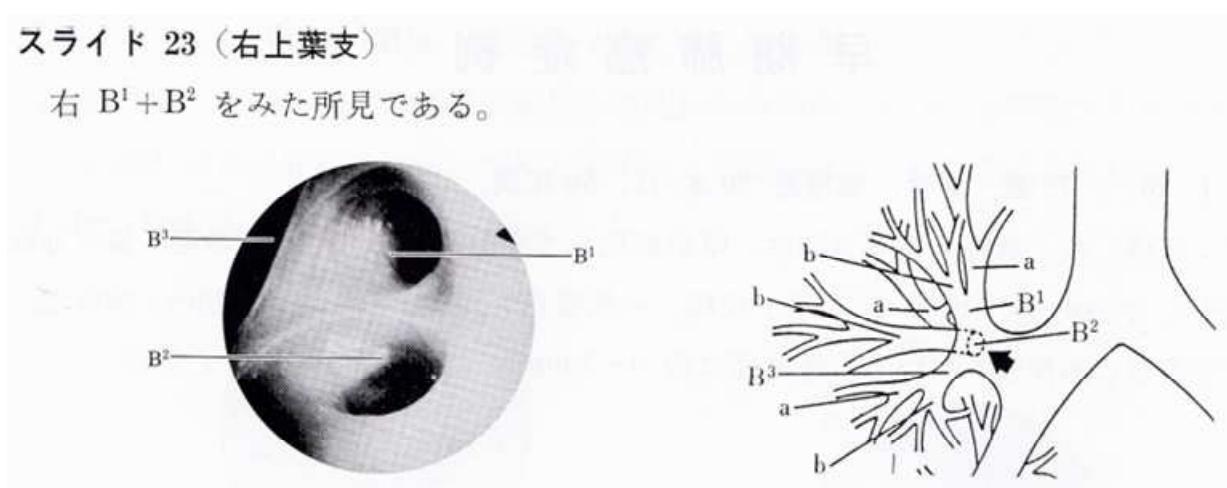


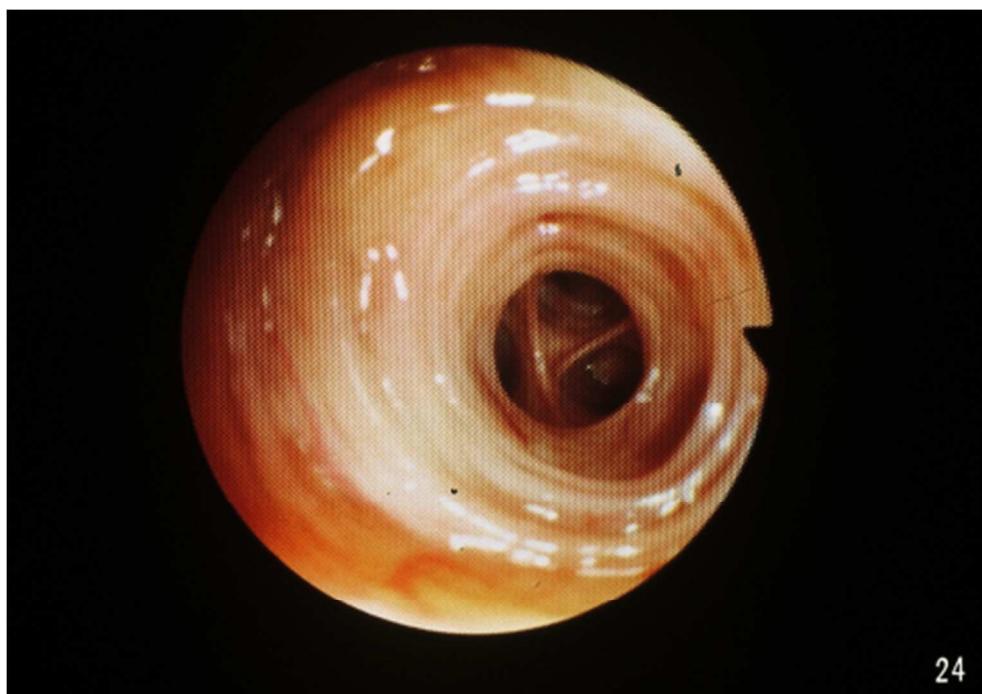


23

スライド 23 (右上葉支)

右  $B^1 + B^2$  をみた所見である。

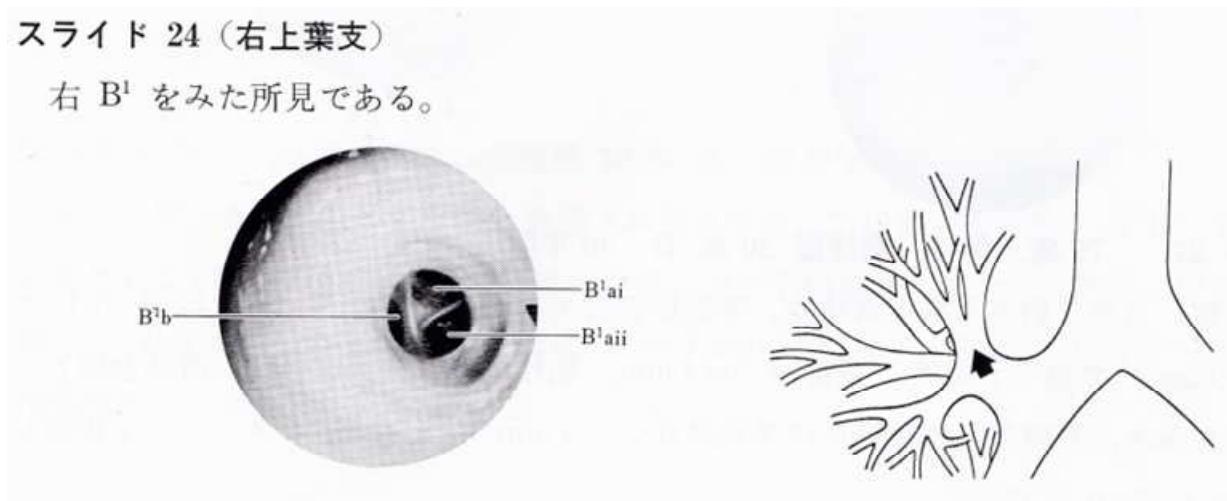




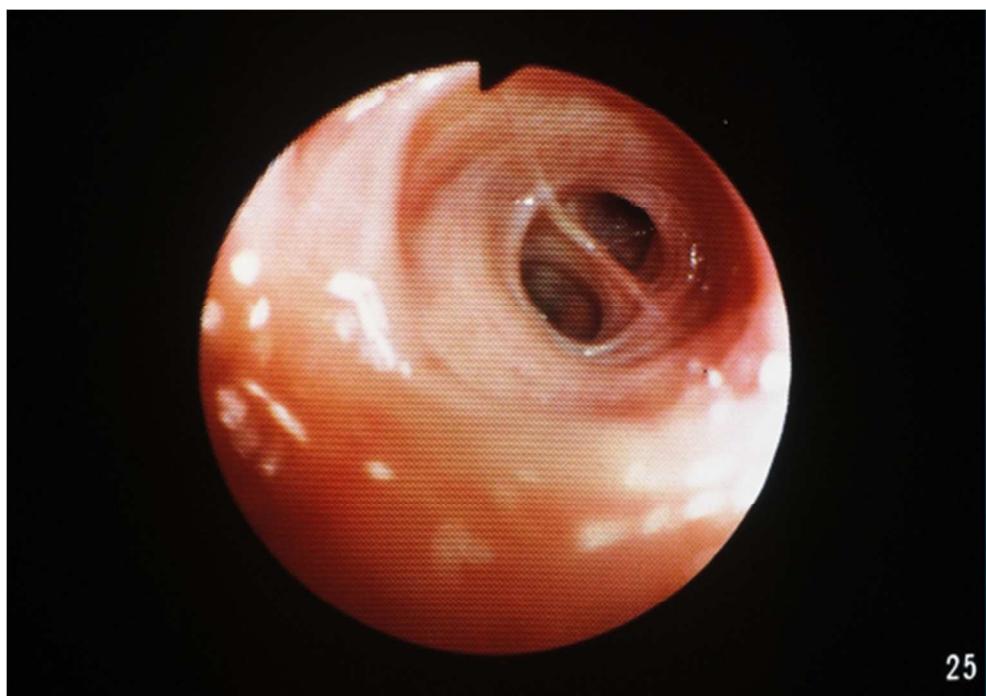
24

スライド 24 (右上葉支)

右  $B^1$  をみた所見である。



24



スライド 25 (右上葉支)

右  $B^2$  をみた所見である。

